

1月26日に開催しました金融部会（内匠屋部会長 日本興亜損害保険）主催「米国に於ける信用保険での売掛債権保全についてのセミナー」の内容をここで詳細にご紹介させていただきます。

「米国に於ける信用保険での
売掛債権保全について」

企業債権リスクについて

米国経済は大型ハリケーンの被害や原油高を経験しながらも2005年度は順調な成長を記録した一方で、米国著名企業のチャプター11が話題になる年でもありました。JCCC金融部会では信用保険分野のNo.1であるEubr AC社の協力を得て財務・経理担当者のご関心が強いと思われる信用保険について、1)米国経済の見通し、2)信用保険による企業売掛債権保全の2部構成にて1月26日にセミナーを開催させていただきました。

第一部：米国経済の見通し

インフレへの懸念：

おおよそ全ての経済指標は上向いていて健全な傾向であるが、石油や天然ガスなど日常生活の基礎となる資源価格で注視すべき部分が見られる。1)ガソリンや天然ガス、原油価格の変動幅が高いポジションのままである、2)1993年以降原油の輸入量が国内生産量を超過しており、海外の原油市場から受ける影響度が年々増えている、3)労務費の上昇も見逃せない要因である。

金利への懸念：

金利は連邦準備銀行（FRB）が将来を見越して設定するものだが、今回は財務省イールドカーブの推移に着目。FRB主導の金利の引上げと共に短期返済の金利は著しく上昇するが、一方で長期返済の金利は微動ではあるが下降気味である。この推移をGDP成長推移と共に時間を横軸にして照合すると、財務省イールドカーブが減少カーブを描いた後に不景気が到来しており、現在要注意の時期である事が過去のデータからもうかがわれる。

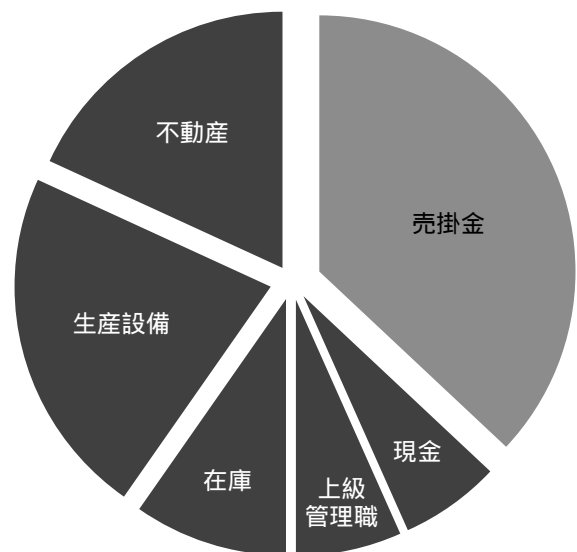
企業の債権不履行リスクへの懸念：

Moody'sやS&P指標は企業の債務不履行リスクは低いとしているが、非上場企業等Moody'sやS&Pの調査対象外企業を含む客観的なデータからは現在債務不履行リスクは低いものの上昇傾向である事が判る。債務不履行リスクは取引先が倒産する事で連鎖的に債権の回収ができなくなることにある。

第二部：信用保険による企業売掛債権保全

上記のような現状を踏まえ、債権リスク回避法の一つとして信用保険の手配が有効である。通常企業の資産の内、売掛金は40%を占めるにもかかわらず、ほとんどプロテクトされていない案外無防備な部分であり、企業の存続を左右しかねない脆弱な部分である。

保険手配によるメリットは次の4点である a) 貸倒引当準備金を減らすことができる、b) 売掛金に対して保険プロテクションがあることでそれを担保に融資の増加が図れる、c) 取引先についてどれだけの信用保険カバーができるかによって営業戦略の資料となりえる、d) 更にサプライチェーン内での連鎖反動的なクレジット・リスクに対してもリスクの転嫁が可能である。キーワードは売掛金のコントロールである。



お問合せはコスモス・サービス・アメリカ社 藤田 (630/773-0241内線 228 または、fuji@cosmosame.com) まで。